

飯高タイムズ 153

»»» ホームページはこちら ⇒ <http://www.ishikawa-c.ed.jp/~iidaxh/>

第69回卒業証書授与式 式辞(ダイジェスト版)

校長 三嶋 達也

日毎に和らぐ陽ざしに確かな春の訪れを感じる今日のよき日に、普通科104名、総合学科39名、合計143名の卒業生に卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さん、おめでとう。心より祝福いたします。

皆さんは、平成26年の春、藤林台の校門をくぐって以来、学業、部活動、学校行事、ボランティア活動などに熱心に取り組んできました。その中で、校訓「精・慎・勤」に培われた本校のよき伝統をしっかりと受け継ぎ、チーム飯田の一員として、着実に一歩一歩前進してきました。ただ、その道は決して平たんな道ではなかったであろうと思います。上り坂もあれば、下り坂もあり、でこぼこ道、曲がりくねった道、広い道、狭い道もあったに違いありません。でもここまで前に向かって進んできたことに心から敬意を表します。また、皆さんが今日の日をむかえられたのは、保護者をはじめ、多くの方々の温かい支えと励ましがあったからです。どうかそのことを忘れないでください。

さて、本日の門出にあたり、私は皆さんに伝えたいことがあります。それは、生徒会誌『星霜第30号』で書いたとおり、「飯田高校を卒業して、チーム飯田から離れても、今度は飯田高校卒業生として、どこにいても飯高魂を忘れずに着実に一歩前進を果たし、常に次の目標に向かって行動せよ」ということです。

昨年の飯高祭のテーマは「飯高魂—The act makes the next.」でした。文化祭、体育祭とも3年生として皆さんが大いに盛りあげてくれたことはまだ鮮明に記憶しています。「行動せよ。そうすれば次が見えてくる。」という言葉、とても前向きな言葉だと思います。これは、「チーム飯田で一歩前進」とも大いにつながっているということも話しました。また、前に進むには自分のことをよく知ること。そのため、自分の「強み」と「弱み」という視点から自己分析をするのも一つの方法だとも話しました。まず自分のことをしっかりと理解し、強みをさらに伸ばしてください。そして、覚えておいてほしいのは、弱みは工夫次第で強みに変えられるということです。皆さんはこれから大いに伸びる可能性があります。私自身の体験から言うのですが、あらゆることは、気持ちの持ち方次第でプラスに変えられるということです。

4月から皆さんの大半は自宅を離れ、一人で生活していくことになります。4月からの生活はいい時もあれば、不安な時もあるでしょう。心配したり困ったり、心が暗くなることもあるでしょう。でも恐れずに、前を向いて行動すること。そうすれば必ず次が見えてくるはずです。

もう一つ、お願ひがあります。それは昨年の卒業式でもお願ひしたのですが、これからどこにいても、故郷に誇りと愛着を持ち、自分のできる方法で故郷の活性化に貢献してほしいということです。珠洲市と能登町にも、強みと弱みがあります。しかし、これも工夫次第で弱みを大きな強みに必ず変えることができると思います。今年度、普通科2年生と1年生は、「主体的・対話的で深い学び」を通して、故郷の活性化のために何をすればいいのかを考える「ゆめかなプロジェクト」を開始しました。来年度も引き続きこのプロジェクトを進めていきますが、卒業生の皆さんにも力を貸していただきたいと思います。

104年の歴史を誇る飯田高校で学んだ皆さんこそ、奥能登の少子高齢社会に対する解決能力を持っていると私は信じています。石川県の最先端のこの素晴らしい故郷で育った皆さんは、地域のピンチをチャンスに変える力を持っていると私は信じています。この地域の活性化のために、自分でできる方法で皆さんの方を貸してください。そのことを強くお願ひいたします。

終わりになりましたが、保護者の皆様にはお子様のご卒業、誠に感慨ひとしおのこととお察し申し上げます。深い愛情を持って、時には厳しく、時には温かく見守りながら、ここまで育てられてきたことに対し、心からの敬意と感謝を申し上げます。

お子様が入学して以来、私たち教職員は最善の努力を重ねてまいりましたが、まだまだ力がおよばなかった面もあったかと存じます。これからは、お子様自らが道をひらき、それぞれの未来に向かって前進してくれるものと確信しております。

結びにあたり、卒業生の皆さんのが長い健康と限りない発展を心から願い、最後にもう一度「明日に向かって一歩前進」という言葉を伝え、私の式辞といたします。



各賞受賞者紹介

「新谷敏夫奨励賞」は、心清く、日々の行い慎ましく世の人のために勤しみ励むことを日々心がける「清慎勤」の精神を体得し、範と認められる生徒に対する表彰です。勲四等瑞宝章を受章された新谷敏夫先生の遺志を受け、平成3年に設立されたこの賞は、飯田高校生にとって極めて大きな名誉となる賞です。今年度普通科1名、総合学科1名の生徒に授与されました。塩井仁美さんは、学業で優秀な成績を収めるとともに部活動や学校行事でも精力的に活動し、三年間にわたりて文武両道に努めました。形倉愛理さんは、学業で優秀な成績を収めるとともに北信越簿記競技大会に県代表として出場を果たし、各種検定取得にも励みました。

「同窓会長賞」は、学校内外の教育活動に積極的に参加し優秀な成績を収めた個人及び団体を表彰するものです。今年度は、民家の甲子園5位入賞を果たした芸術部と、学業や生徒会活動、部活動で活躍した9名が受賞しました。

「皆勤賞」は、3年間、無遅刻・無欠席・無早退・無欠課を継続した生徒に贈られ、今年度は30名が表彰されました。また、総合学科で優秀な実績を残した生徒に対して、専門教育に関連する協会から賞が授与されました。

◆新谷敏夫奨励賞

塩井 仁美 (3B) 形倉 愛理 (3D) (以上 2名)

◆同窓会長賞

【個人】

佐藤 里香 (3A)	椿原 綾音 (3A)	野村 隼平 (3B)	角野 舞 (3C)	鳥毛 祥瑛 (3C)
白坂圭史郎 (3C)	上田 純希 (3D)	北川 虎史 (3D)	畠山 慶子 (3D)	(以上 9名)

【団体】

芸術部写真班
柳谷 藍可 (3A) (以上 1団体)

◆皆勤賞

亀田 恵 (3A)	長松 航平 (3A)	土口 茂穂 (3A)	橋本 莉緒 (3A)	平田 拓夢 (3A)
山本 祐実 (3A)	井林 大成 (3B)	江川 鳴眞 (3B)	坂口 大輔 (3B)	下 菜月 (3B)
地原 誠貴 (3B)	長岡 千夏 (3B)	中町 安那 (3B)	西 綾音 (3B)	新田 彩莉 (3B)
野村 隼平 (3B)	畠中ありさ (3B)	濱野 晃丞 (3B)	谷内口瑞稀 (3B)	奥野 結衣 (3C)
鍵主 淳樹 (3C)	湯渕 竜也 (3C)	但馬 啓樹 (3C)	辻口 和寛 (3C)	鳥毛 祥瑛 (3C)
小川 魁斗 (3D)	徳力 将大 (3D)	林 裕之 (3D)	比古咲 秀 (3D)	水上 智仁 (3D)
(以上 30名)				

◇専門高等学校等御下賜金記念優良卒業生

長谷 里奈 (3D)

◇全国総合学科高等学校長協会会長賞

鷺 雅人 (3D)

◇全国商業高等学校協会賞

竹崎 実希 (3D)

◇全商検定1級3種目以上

3種目

井林 大成 (3B) 上田 純希 (3D) 形倉 愛理 (3D) 竹崎 実希 (3D) (以上 4名)

珠洲市スポーツ賞・珠洲市少年文化賞 能登町スポーツ奨励賞 受賞者紹介

●珠洲市スポーツ賞 (個人)

北川 虎史 (3D) ウエイトリフティング部
小林紗良花 (1A) ウエイトリフティング部
山下 憲一 (1D) ウエイトリフティング部
小畠 康成 (1A) 陸上競技部

●珠洲市スポーツ奨励賞 (団体)

ウエイトリフティング部 (男子)

●珠洲市スポーツ奨励賞 (個人)

白坂圭史郎 (3C) 相撲部
青坂 直樹 (2A) 陸上競技部
濱野 郁也 (1A) ウエイトリフティング部
木挽 鳩太 (1D) ウエイトリフティング部

●珠洲市少年文化賞 (団体)

芸術部

●能登町スポーツ奨励賞 (個人)

坂口 達哉 (2A) ウエイトリフティング部

小畠康成 (1A : 陸上競技部)

この度、このような賞を頂けて本当にうれしく思います。国民体育大会で準優勝することができたのは、僕が陸上をする上でサポートしてくださった陸協関係の方や、顧問の先生方のおかげだと思います。昨年は大事な場面で勝ちきれず、目標を達成出来ない事が多々ありましたが、今年は日本ユースやインターハイなどの大事な大会がたくさんあるので、そのような大会で自分の持っている力以上のものを出せるように練習していきますので応援よろしくお願ひします。

総合学科「総合的な学習の時間」研究成果発表会

総合学科 平田 正得

平成 29 年 2 月 2 日 (木) 宝立校舎に於いて、総合学科 3 年生が 1 年間かけて研究に取り組んできた成果を総合学科 1・2 年生の前で発表しました。

テーマは

- | | | |
|--------------------|----------------|----------------|
| 1 : 珠洲の食材を使ったお菓子作り | 2 : 漂流物調査 | 3 : 椿油を使った商品企画 |
| 4 : チラシ作成 | 5 : MITSUKE 工房 | 6 : 見附 HP 作成 |

当日、北國新聞に「感謝のケーキ」として取り上げられた「すずみつけ一き」の販売も行われました。今回の発表は全体のテーマが見附島にちなんだものになっており、見附島周辺の地域の活性化につなげたいという感謝の気持ちを込めました。

最後に緑丘中学校校長の吉木先生から講評をいただきました。「地域創生は君たち若者の手にかかっている。地域イノベーションを起こしてもらいたい」という、講評の中での生徒へのエールの言葉が印象的でした。



「石川県課題研究発表会」に参加して

第 19 回商業生徒発表会 2 月 13 日 (月) 金沢市文化ホール

商業科 山元 真吾

宝立地区の活性化プロジェクトとして、海の利用、プロモーション活動、見附ブランドの 3 方向からの視点で総合学科が 1 年間研究を進めてきました。商品化した珠洲みつけ一きをはじめ、椿油の新商品化、漂流物調査、珠洲の飲食店のマップ作り、ホームページの制作についてこれまでの取り組み内容や課題点などを発表しました。今後の奥能登珠洲の活性化に繋がることを期待したいと考えています。



JICA 北陸による出前授業

社会科 笛木 勝

2 月 22 日 (水) 1 限～4 限を利用し、現代社会の授業の一環で、1 年生を対象に JICA 北陸の木水 蔦代氏をお招きして、JICA の取り組みや発展途上国の現状、日本の国際社会における役割について授業をおこなって頂きました。

授業では、※ JICA がどのような取り組みを行っているかクイズ形式で考えてみたり、教科書には載っていないような発展途上国の現状について、体験談を交えながら熱心に説明して頂きました。ある国で水道の蛇口をひねったら、魚がたくさん出てきたエピソードには生徒も目を丸くしていました。こういった授業を通じて、生徒もひとりの地球市民として、共存・共生するには自分達にできることは何か、考えるきっかけになってほしいと思います。

※ JICA (独立行政法人 国際協力機構) は、ODA (政府開発援助) の実施機関で、発展途上国を経済支援する機関です。



3 月行事予定

3 日	金	第 69 回卒業式
7 日	火	学検～8 日
13 日	月	春季球技大会
16 日	木	卒業生と語る会(2 年普) 新 2・3 年生個人写真 生徒会選挙告示
18 日	土	スタディサポート等(全学年)
21 日	火	予備入学
23 日	木	生徒会役員選挙
24 日	金	3 学期終業式 離任式

みんなの夢かなえるん dia !

飯高生の「ゆめかな」プロジェクト 発表会

～ふるさとの「見方」を発信し、ふるさとに寄り添う「味方」であるために～

教務課 平野 敏

2月18日(土)、ラポルトすすに「ゆめかな」発表会が行われました。泉谷市長をはじめたくさんの来賓の方々にご出席いただき、1年間の集大成を披露することができました。校内選考会で選ばれた5グループは、緊張しながらも堂々と発表してくれ、会場で見ている他のグループにとっても非常に良い刺激になりました。会場からも、積極的な質問がとんでもいました。



ステージ発表終了後はホールでポスターセッションが行われ、ご出席いただいた来賓の方々やメンターの先生方から直接アドバイスをいただきました。



総合学科3年生による発表も行われました。総合学科の成果発表は宝立校舎で行われたため、普通科の生徒にとって、総合学科の生徒がどのような研究に取り組んでいるのかを知る良い

機会となりました。しっかりとした調査やデータに基づいて研究が進められていること、たった1年という期間で商品化していることに驚きました。



ステージ発表の最後にはパネルディスカッションが行われ、プロジェクトの取組を通して一番印象に残っていることやできるようになったことなどが話し合われました。生徒からは「最初は小さな気づきでいいんだなあと思った。そこからたくさんのアイディアが浮かんできた。普段から疑問に思ったり、何かを知ろうとする小さなきっかけが大事なんだ。」「将来は都会に出たいと考えているが、このプロジェクトを通して珠洲の良さを初めて認識することができた。」などの意見が出されました。



この1年間メンターとしてご協力いただいたメンターの先生方からは、「一人でできる仕事はない。人とつながることでまた新たな道が開けるもの。私は皆の夢を叶えてあげたいと思った。あきらめない心を持って下さい。」と、このプロジェクトの立ち上げにご尽力いただいた金沢西高等学校

校教頭 斎藤みどり 先生からは「このプロジェクトで身につく力は5年・10年先に役立つ力です。まずは、人と関わる中で新しいアイディアが次々と生まれるそのわくわく感を味わってほしかった。面白くないものを面白くしましょう。」と、それぞれにエールをいただきました。



生徒の要望に対して、泉谷市長は「今年行われる芸術祭で実現可能な企画がたくさんある。一緒に頑張りましょう。」と前向きにコメントして下さいました。



2年生にとって今日が最後の活動でした。最後にミーティングが行われ、1年生の今後の活動が心配だと言っている2年生がいました。自分たちの想いを受け継いでくれるだろうか、そんな顔をしている2年生からこのプロジェクトへの愛着が伝わってきました。何もかもが初めてで、1年生を引っ張っていかなくてはいけないし、だけど何をすればいいのかわからない。」「やりたいこと」「おもしろいこと」って何だ?ともがき続けたのは紛れもない2年生でした。このプロジェクトが自分にとって良かったのか悪かったのか、それは生徒自身が決めることです。しかし1年間生徒たちを見てきて、最初から「おもしろい」と思ってこの活動をスタートさせた生徒は少なかったけれど、メンターの先生方のご協力もあって、想いを形にする過程で「おもしろい」と思えた生徒が確実に増えたことを実感しています。